



10月号

令和6年10月1日

# 神根小だより

川口市立神根小学校

在籍児童274名16学級



## 心を育てる

校長 篠崎 弘敬

急に季節が進行し一気に秋めいてきました。涼しく感じる日々が多くなった半面、暑い日もまだまだあるようです。保護者の皆様、地域の皆様いかがお過ごしでしょうか。学校の子供たちは、涼しくなった気候のもと元気いっぱい教育活動に取り組んでいます。

さて、先日川口市教育研究会にて「非認知能力について」という演題で岡山大学准教授である中山芳一先生の講演を聞きました。「非認知能力」とは文字の如く、認知できる能力ではないということになります。「認知能力」は簡単に言えば、点数化等ができる認知できる能力のことです。現在の学校教育等で行っているテストの点数等で認知できる力がこれに当たります。

逆に非認知能力とは、点数化等が容易でない能力を指します。近年その重要性が注目され、「見えない力」等ともいわれることもあります。「非認知能力」は、自制心であったり忍耐力であったり、回復力であったり、意欲、楽観性コミュニケーション能力等がこれに当たります。少々点数化することが難しい力です。

これらは、昔から教育の世界や家庭教育では大切にされていた「心を育てる」ということです。「心の育て方」を多面的な視野で教育することが重要であることを学びました。

講演会の中で、特に印象に残ったのは、子供の脳の発達と「心の育て方」についてです。【資料1】を見ると9歳・10歳位を境目に18歳位までに「思考脳」が急速に成長していくことがわかります。この時期には、論理的思考力や科学的な思考力が伸び、自己客観視等ができるようになります。特に小学校3～4年生位から自分自身を客観的に見る力が伸びていくとの事でした。小学校1～2年生の自分中心の世界から脱却し、自分自身を振り返る力が伸びるということです。自分自身の行動を振り返り、行動を内側（自分自身）から変えていくことの大切さについて再認識いたしました。学校教育では、道徳の時間や学習の時間に振り返りを行い、自らの行動について考える機会があります。

また、学校生活の中では友人との関わりを通し自分を見つめ直し成長させる機会もあります。これらの指導にも力を注ぎ教育活動を行っていきます。外側からの指導（規律面等）と内側からの指導をバランスよく行い子供たちを成長させていきたいと考えています。どうか保護者の皆様地域の皆様におかれましては子供たちの成長段階に応じて自らの行動について問いかけ等をしていただければ幸いです。月末には、音楽会があります。今月から本格的な練習も始まります。音楽会を通じて子供たちに努力する心、友人と協力する心を育成し、更に意欲を伸ばせるように職員一同頑張っております。どうぞ、今月もよろしくお願いいたします。

【資料1】中山氏講演会資料より

